

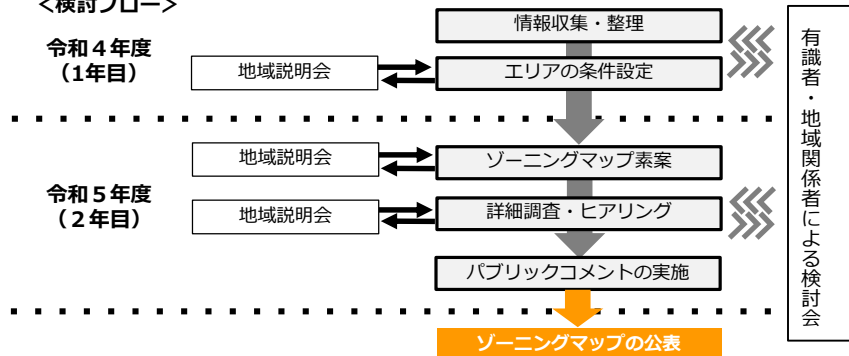
## ゾーニングの目的と背景

- ・那須塩原市では、2022年3月に気候変動対策計画を策定し、2050年までにCO2排出量実質ゼロ、2030年までに50%削減を達成する目標を掲げました。
- ・脱炭素社会の実現に向けては、地域資源である**再生可能エネルギーを最大限に活用**することが求められます。
- ・一方で、森林伐採を伴うメガソーラーの設置など、**環境と調和が図られない開発が懸念**されます。
- ・再生可能エネルギーの**無秩序な開発を抑制し、適切な導入を誘導**することを目的として、ゾーニングマップを作成しました。

## 作成の流れ

- ・ゾーニングマップの作成は、令和4年度から2か年で実施しました。
- ・ゾーニングマップは、検討会や地域説明会を通じて、地域住民や有識者など様々な関係者のご意見を伺いながら作成しました。
- ・ゾーニングマップの作成に併せて、発電事業を計画を検討する際の環境配慮事項を整理しました。

### <検討フロー>



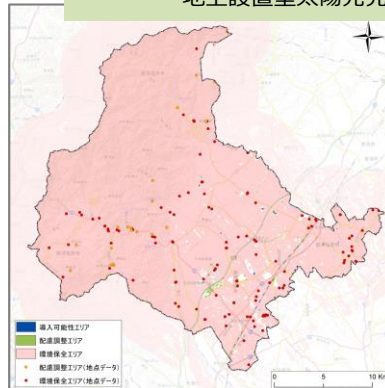
## エリアの区分

エリア区分	基本的な考え方	再生施設の事業検討
導入可能性エリア	環境保全エリア、配慮調整エリア以外で、再生エポテンシャルが見込まれることから <b>再生エの立地可能性が高いと考えられる</b> エリア	可能
配慮調整エリア	環境保全エリア以外で再生エポテンシャルが見込まれることから再生エの立地可能性はあるものの、関係法令や条例等に基づき防災、環境、景観保全等の観点から指定されているエリアであり、 <b>慎重な検討が必要</b> なエリア	可能 より慎重な 検討が必要
環境保全エリア	再生エの立地は困難又は重大な環境影響が懸念されることから <b>環境保全を優先する</b> エリア	回避すべき

※ 白地（色塗りが無い範囲）は、土地利用上設置不可能な範囲や再生エポテンシャルがない範囲を示す。

## ゾーニングマップ

### 地上設置型太陽光発電ゾーニングマップ



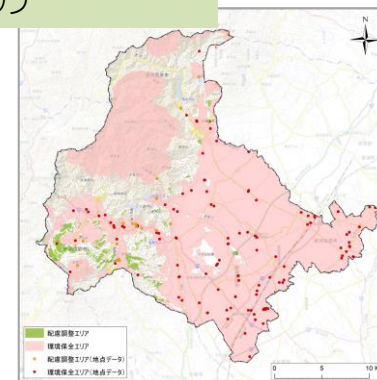
特色：  
これまでの市内での開発状況を踏まえ、特に**森林を伐採しての大規模な開発を避ける**ように環境保全エリアの条件を設定しました。  
目標達成に向けては、地上設置型だけでなく、**屋根設置型太陽光発電も併せて検討**していく必要があります。

エリア	面積ha (割合)
導入可能性エリア	25 (0.042%)
配慮調整エリア	122 (0.21%)
環境保全エリア	56,948 (96.1%)

### 風力発電ゾーニングマップ

特色：  
**風況が良い山岳地**に分布する貴重な自然環境や、住宅地周辺の生活環境への影響を配慮しつつ配慮調整エリア、環境保全エリアの条件を設定しました。

エリア	面積ha (割合)
導入可能性エリア	0 (0%)
配慮調整エリア	1,065 (1.8%)
環境保全エリア	41,753 (70.4%)



## 今後の展開

- ・那須塩原市では、今後**ゾーニングマップを基にして促進区域※の設定を検討**していきます。促進区域の設定により、脱炭素社会の実現のために必要な地域に貢献する再生可能エネルギーの導入を適切に進めていきます。
- ・促進区域は、ゾーニングで区分した配慮調整エリア、導入可能性エリアを基に候補となる場所を検討し、地域の合意を図りつつ設定していく予定です。

※ 地球温暖化対策の推進に関する法律に規定される再生可能エネルギーの導入をポジティブに進めるために市町村が定めることができる区域



令和6年度以降も地域住民の意見を聞きながら、促進区域設定の検討を進めます